

金融危機を考えるミクロ的経営組織分析の枠組み

久原正治（昭和女子大学）

個別金融機関の経営に問題が生じると、それが伝播し金融システム全体の危機につながるケースが多い。そこで本研究では、このような金融危機を防止するためには、金融システムや金融機関のガバナンス構造などのマクロの分析だけではなく、個別金融機関経営の組織自体の問題や意思決定、経営行動、規制当局も含む組織間の関係といったミクロの組織の問題に着目した分析を行う必要があることを明らかにし、その理論的枠組みを検討してみたい。

最初に、これまでの報告者の（１）バブル破たんと邦銀経営、（２）サブプライム問題に端を発する金融危機と大手米銀の経営、（３）福島第一原発事故と東京電力経営についての事例研究からの知見とを整理統合し、特に日本の金融機関がメンバーシップ型の雇用構造の中で、急激な環境変化に適応できなくなったミクロ組織の問題を指摘し、併せてウォール街にも同様に見られるような、共同体組織のインサイダーとなった大手金融機関と規制当局が共同体の利益を優先した組織行動をとる中でシステム全体の危機を広げていった組織間関係の構造を明らかにする。

そこでは、リスクを想定外として片づけがちな内部昇進型のメンバーシップ組織における組織リーダー達の経営意思決定の硬直性や、規制する側とされる側が利益を共有するインサイダー共同体型の組織間関係における組織の規律付けの欠如などの問題を検討する。そしてそのような組織環境の中で、個別金融機関組織の中で内部の規則や手続きの精緻化のみを追及する内部官僚型組織運営文化が浸透し、一方で野放図なリスクテイクに走る経営者や、それとは反対に通常とるべきリスクまで回避する経営者といった極端な経営行動が出て来る理由などを考えてみたい。

最後に、マクロの問題を説明するミクロ的基礎の理論に関する先行研究を整理したうえで、ミクロの個別金融機関の経営組織の分析の積み重ねが、マクロの危機やリスクの問題の解明にどのようにつながるのか、金融危機と大手金融機関組織の経営の成否をよりよく説明できる、経営組織に関するミクロ的基礎の理論的枠組みの構想を考えてみる。そこから、金融危機の再発を防ぐには、マクロの金融システムを標的に規制やガバナンスの仕組みを変えるだけではなく、過去の組織の失敗に学び、ミクロの個別金融機関における組織文化や組織行動から変革していく必要性について言及したい。